

5 領域とのつながりを明確化した支援内容②

< ② 運動・感覚 >

児童発達/放課後等デイサービス・ネオライフ児童園

〜ねらい〜		
① 姿勢と運動・動作の向上 ② 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ③ 保有する感覚の総合的な活用		
〜具体的な支援内容〜		支援プログラム <一例>
姿勢と運動・動作の 基本的技能の向上	日常生活に必要な基本となる姿勢保持や、運動・動作の改善、筋力の維持・強化を図っていく。それぞれの発達状態に応じて、遊びの中で体幹を使い、鍛えながら、椅子や机を用いた支援において正しい姿勢が習慣づくようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なわとび・ ボール遊び</li> <li>・ 体幹を鍛える遊びトランポリン・ブランコ・バランスボール</li> <li>・ 足置き</li> <li>・ 散歩（五感の刺激・運動）</li> <li>・ 鉄棒</li> <li>・ 砂遊び・粘土遊び</li> <li>・ 製作（感触・指先を動かす）</li> <li>・ メガネ・補聴器</li> <li>・ 環境設定 （部屋の明るさの調整、周囲の音の調整、部屋の温度の調整、落ち着ける場所づくり）</li> <li>・ 補助具 （イヤマフ、保冷剤、ついたてなど）</li> </ul>
姿勢保持と運動・動作の 補助的手段の活用	姿勢保持や運動・動作が困難な場合は、足置きをおく、背中を支えるクッションを入れるなど、様々な補助用具等の手段を活用していく。	
身体の移動能力の向上	日常生活に必要な自力での身体移動や歩行の移動能力向上のための支援を行っていく。	
保有する感覚の活用	保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊具や器具を使った遊びなどや、その他様々な運動を取り入れ、保有する感覚を総合的に活用できるようにしていく。苦手な動きも遊びに取り入れ、楽しみながら動いていけるように支援していく。	
感覚の補助及び代行手段の活用	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくなるようメガネや補聴器などの各種の補助器具を必要とするお子様には、安全に活用し、周りの状況を把握できるように配慮していく。	
感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻） への対応	一人ひとりの感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）に応じて、感覚の偏りに対する環境調整を行い、個別に対応する補助具を活用していく。	